

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105727
法人名	株式会社セラピー
事業所名	グループホームしらゆり
所在地	松山市鷹ノ子町154番地1
自己評価作成日	平成21年8月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年9月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの方針	<p>笑顔で挨拶の励行                  利用者とのコミュニケーションをとり、信頼関係を築く。（尊敬の気持ちでさせて頂くをもっとに、言葉遣いや態度には充分気をつけ、笑顔で優しく接すること）                  利用者が出来ることは、時間がかかってもやっていただく。                  グループホームは居宅です。基本的には、利用者が自由に生活して頂き、その見守りを行う。</p>
--------	---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

調査訪問時の昼食時、利用者との職員で農作業や野菜の種類の事等について、熱心に話し合っておられる様子がうかがえた。 遠方に住むご家族から、誕生日や母の日のプレゼントが届いた際には、お礼の手紙を職員が代筆されることもあり、又、利用者がプレゼントを持った写真をご家族にお送りし、居室にも写真を飾るようにされている。 居室には、今年103歳を迎えられる方は、長寿を祝って市長や知事、時の総理大臣から贈られた賞状を額に入れて飾っておられた。職員が作成された、イラスト入りの1日のスケジュール表を貼っておられる方もあり、表の「メダカの餌やり」の箇所を職員が指さされると、「もうやりました」と、うなずいておられた。
--

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム しらゆり

(ユニット名) ユニット A

記入者(管理者)

氏名 家木 美貴子

評価完了日 21 年 8月 25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホーム内の共有空間に理念を掲げ、ミーティングの時に理念に触れるようにしている。 (外部評価) 「地域社会との交流」を事業所の理念の一つに掲げ、「地域の方に気軽に立ち寄っていただける事業所」を目指しておられる。ミーティング時のレジメの冒頭には、必ず事業所の理念を示し、代表者は理念について具体的に話されたり、時には全職員で唱和されることもある。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地方祭の時に、町内会にお願ひし、御輿・獅子舞に来て頂き、利用者と一緒に楽しんだ。 夏祭り(盆踊り)に利用者と共に参加させて頂き、楽しんだ。 (外部評価) 代表者ご夫婦が地元の方でもあり、近隣の方から野菜等のおすそ分けをいただくことも多い。利用者の中には、稲刈り後の藁を束ねたり、畑を耕す等、近所の農家のお手伝いをされる方もある。地域の中学生が職場体験学習で来訪した際には、一緒に車椅子で散歩に出かける等、利用者は子ども達との交流を楽しまれた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症サポーター養成講座終了者のステップアップ講座のグループホーム体験の4名受け入れ予定。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、外部評価についての報告や話し合いを行い、意見を頂いたり、町内の行事予定等情報を頂いたり、社会福祉協議会等の職員の方に「ボランティア」「成年後見人制度」等について研修をして頂いたりして、サービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価)                      会議を2ヶ月ごとに開催されており、町内会長や地域の民生委員、市社協の担当者の方等も出席されている。利用者が出席された際には、ご自分で自己紹介をされた。会議時に、裏庭で利用者もともにバーベキューでの昼食会を行い、利用者とは話し合っていたこともある。</p>	<p>事業所では、ご家族に会議の案内はされているが、この1年、ご家族に出席していただけていない状態である。ご家族等、利用する立場の方にも出席いただけるよう、さらに働きかけ等の工夫を重ねていかれてほしい。管理者は、今後は、会議の内容をご家族に報告していきたいと話しておられた。</p>
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      運営上問題が生じた場合、その都度担当者に相談し、快く相談に応じて頂き、課題解決を図っている。</p> <p>(外部評価)                      運営推進会議時に、地域包括支援センターの方から、近隣の外出スポットの情報をいただき、近々出かける予定となっていた。又、市社協の担当者の方からは、会議の議題を提供していただくこともある。市の福祉課の担当者の方の来訪時には、生活保護受給者の方の生活について報告し相談されている。行政からの依頼で、認知症サポーター養成講座のグループホーム体験を受け入れる予定となっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      ミーティングにて、「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」を説明し、職員が拘束しないケアを実施している。</p> <p>(外部評価)                      日中は、玄関は施錠されておらず、玄関前のベンチでくつろいでおられる利用者が見受けられた。ミーティング時には、身体拘束について勉強して、身体拘束をしないケアに取り組まれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  ミーティング等において、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や、遵守に向けた取り組みを行っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  成年後見人制度、地域福祉擁護事業についてミーティングで説明し、パンフレットを常備し、全職員が必要な時に活用できるよう支援している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約を結んだり解約する際、内容を十分説明し、理解、納得を図っている。 契約後、1部お渡しし、再度不明な点がある場合は連絡頂き、再度説明し、理解、納得頂いている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  利用者の意見等については、利用者中心の観点から重要視し、早急に解消し、運営に反映させている。  (外部評価)  ご家族の来訪時等に、意見等を聞くようにされている。ご家族から、共用空間で「音楽を流してほしい」との要望があり、事業所ではカラオケを購入された。毎月、利用者個々に写真を掲載した便りを作成し、利用者の日々の生活ぶりや診察結果等をご家族に伝えておられる。	安心して事業所に任せておられるご家族もあり、現在は、ご家族からの意見や要望は少ない。今後、ご家族の意見や要望を出していただけるような働きかけや機会作り等、工夫を重ねていかれ、事業所のさらなるケアの質向上への取り組みにつなげていかれることが期待される。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングの時や日々の生活の中で、職員の意見や提案を聞くようにしている。	
			(外部評価)	
			ミーティング時に、職員から、脱衣場の手すりの設置や外出時は利用者個々に名札を付けることの提案があり、採り入れられた。	代表者及び管理者は、今後さらに、職員の「建設的な意見」を引き出し、運営に反映していきたいと考えておられた。そのためにも、さらに積極的に職員研修の機会を提供し、職員個々の認知症ケアの知識や、介護技術の向上を目指していきたいと話しておられた。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			運営者は日常ホームに来ており、利用者や職員との業務や悩みを把握している。また、職員が向上心を持って働けるよう、職務評価を行っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修の情報を提供し、事業所以外で開催される研修には参加費会社負担で、なるべく多くの職員が受講できるよう、シフトの調整を行い、研修報告は毎月のミーティングで発表するようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			愛媛県グループホーム連絡協議会で、9月に実施される相互研修に参加致します。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			本人から困っている事、不安な事、求めている事等を受け止め、不安を取り除く努力を充分行う事により、信頼関係を築くよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	<p>ご家族が求めている事を理解し、事業所としてはどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	<p>相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>支援する側、支援される側という意識を持たず、できるだけお互いが協働しながら、和やかな生活ができるように場面作りや声かけをしている。</p>
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や、気づきの情報の共用に努め、本人と一緒に支える為に家族と同じ思いで支援している事を伝えている。また、家族には、できるだけご来訪頂くようお願いしている。</p>
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	<p>知人、友人等に会いに行ったり、訪問してもらう等、繋がりを継続できる支援をしている。</p>
			(外部評価)	<p>以前入居されていた方のお家を訪ねたり、馴染みの美容院を利用できるよう支援されている。遠方に住むご家族から、誕生日や母の日のプレゼントが届いた際には、お礼の手紙を職員が代筆されることもあり、又、利用者がプレゼントを持った写真をご家族にお送りし、居室にも写真を飾るようにされている。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共用できるようにしている。また、心身の状態や気分、感情で日々変化する事もあるので、注意深く見守るようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用者が終了しても、自宅に会いに行ったりして、関係者を大切にしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中で、声かけ・把握に努めている。困難な場合は、家族等から情報を得るようにしている。また、入浴介助等をする場合、本人納得の上で行うようにしている。	
			(外部評価) 日々のケアの中で知り得た利用者一人ひとりの情報は、申し送りノートや日誌に記載し、職員間で共有されている。	事業所では、現在、センター方式を採用入れ、利用者個々にアセスメントシートを作成中である。管理者は、今後、介護計画に活かし、日々のケアにつなげていきたいと考えておられた。又、職員は、「利用者一人ひとりに寄り添う時間を増やし、もっとご本人の思いを汲み取っていきたい」と話しておられた。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に、本人、家族から情報収集や、生活の中で得た情報からその人らしい生活ができるように支えている。但し、情報が少なく、最近の事しか分かっていない利用者もいる。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムをバイタルチェック等で把握し、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			ご本人や家族の思いや意見を聞き、スタッフ全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、介護計画の作成を行っている。	
			(外部評価)	
			ご家族には、来訪時や電話で希望をお聞きして、カンファレンス時に職員の気付きを話し合い、介護計画を作成されている。利用者によっては、かかりつけ医の意見等を採り入れておられる。計画は、3ヶ月ごとに見直すようになっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			利用者の日々の様子やケアに、実践結果、気づきや工夫を介護記録やホーム日誌に記入し、職員間で情報を共有している。 また、結果を基に、介護計画の見直し、評価を実施している。	
			(自己評価)	
		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院の送迎、本人の要望に応じて買い物等の同行など、必要な支援については柔軟に対応している。また、定期的に訪問理美容を利用している。	
28			(自己評価)	
			(自己評価)	
		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察・消防等の連携を取っている。 また、民生委員と意見交換する機会を設けている。	
29			(自己評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医の他、利用者からのかかりつけ医での医療を受 けられるよう、家族と協力し、通院・介護を行っ たり、訪問診療に来てもらっており、複数の医療機関と 関係を密に結んでいる。	
			(外部評価) 協力医療機関には、24時間対応していただけるよう になっており、毎週、往診がある。通院の際には必ず 職員が付き添われ、ご家族にもその都度、電話等で報 告されている。調査訪問時は、訪問歯科医が来られて いた。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 正看護職員を配属しており、常に利用者の健康管理 や、状態変化に応じた支援を行えるようにしている。 看護職員が居ない時間は、介護職員の記録をもとに、 確実な連携を行っている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時、本人の情報を医療期間に提供し、職員が見 舞うようにして、回復状況など、速やかな退院支援に 結び付けている。 医師と話す機会を持ち、ホームでの対応が可能な段 階で、なるべく早くに退院できるようアプローチして いる。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ホームで対応出来る最大のケアについて説明を行っ ている。 状態の変化がある毎に、家族・医師を交えて話し合い を行い、支援につなげている。	
			(外部評価) 事業所の看取りの指針に基づいて、事業所が「できる こと・できないこと」をご家族に説明されている。経 管栄養、胃ろう、酸素吸入が必要となった場合等、ご 本人の状態変化時には、協力医の指示のもと、看護師 資格を有する管理者が職員に、対応について説明をさ れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルは作成しているが、全ての職員が年1回の応急手当の勉強会(実技を含む)の実施が出来ていない。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、避難経路の確認、火災時の通報の仕方等の訓練指導を定期的に行っている。 消火器等、設備点検を定期的に行っている。 年に2回以上、避難訓練を行っている。 運営推進会議で、地域住民等の協力をお願いしている。 (外部評価) 年2回、利用者も参加して避難訓練を実施されている。その際、消防署の方から、火災の際には居室のドアを閉め、地震の際には開けておく等、アドバイスをいただいた。運営推進会議では、地域の方から「利用者の避難後の見守りの協力等をしていきたい」と申し出ていただいている。	事業所では、スプリンクラーの設置を予定されていた。今後、さらなる利用者、職員の安心安全のために、地震等いろいろな災害等の場面を想定した訓練を重ねていかれてほしい。又、地域の方達にも避難訓練に参加していただく等、さらなる協力体制を築いていけることが期待される。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ミーティングの折に、職員の意識向上を図ると共に、日々の係わり方(言葉使いや態度には充分気をつけ、笑顔で優しく接すること)をリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。 (外部評価) 職員は、「利用者の人格と価値観の尊重」の理念のもと、利用者のその日その日の表情にも留意し、笑顔で接しておられた。昼食時、スプーンを落とした利用者の方に、さりげなく対応されていた。又、職員は利用者の個人的なことは、居室でお話しされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員側で決めた事を押し付ける様な事はせず、利用者に声かけをし、複数の選択肢を提案して、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な1日の流れはあるが、1人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個性のある支援を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えは基本的に本人の意向で決めており、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。理美容は、訪問してもらったり、望む店に行かれてたりしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備等、利用者が出来る事は手伝って頂き、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう、雰囲気作りをしている。 (外部評価) 調査訪問時の昼食時には、事業所の農園で利用者が収穫された季節の野菜が食卓に上っており、利用者と職員で農作業や野菜の種類のこと等について熱心に話し合っておられる様子がうかがえた。利用者個々に食べやすいように下ろし金で食材をすったり、きざむ等、配慮されており、ほとんどの方が残さず食べられるよう調理されていた。献立には利用者の好みを取り入れ、薄味を心がけ、必ずデザートに果物を添えるようにされている。利用者が目の不自由な方の下膳をお手伝いされたり、テーブルを拭いたりされている様子がうかがえた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者の水分摂取量、残食量を毎日把握し、個人情報にも記載している。 利用者個人個人についての食事の栄養面についても、主治医の指示で、1500~2000calとしている。 毎日体重測定を行い、参考にしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、歯磨きや義歯の洗浄・うがいの支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	時間や態度を把握し、トイレ誘導を行い、排泄を促している。  できるだけ布パンツで生活できるよう支援されており、利用者個々の排泄パターンに合わせて、声かけやトイレ誘導をされている。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	野菜を多く取り入れた食事や、水分摂取を促し、散歩・体操等身体を動かすよう、働きかけを行っている。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	男女・曜日で分けているが、利用者のその日の希望を確認し、曜日に関係なく利用者の希望で入浴頂いている。  男性は火木土、女性は月水金に入浴するようになっているが、希望に応じて臨機応変に支援されている。畑仕事に精を出される方等は、一汗かくたびにシャワーを浴びておられる。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。 不眠傾向には、医師に指示を仰ぎ、眠剤を服用している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は個別の管理ケースに保管し、その日の担当職員が服薬時、利用者に手渡しし、服薬確認をしてサインをしている。処方箋があれば、申し送りや連絡ノートで全職員が分かるようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 1人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事をして頂き、感謝の言葉を伝えるようにしている。 畑が楽しみの利用者には、野菜作り、草引き等について支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じて、日常的に散歩や買い物に出掛け、季節を肌で感じられる様に支援している。 月に1回、ユニット毎に外出・外出行事を行うようにしている。	
			(外部評価) 日常的に散歩や近所のスーパーに買い物に出かけておられる。毎月、ユニット毎に外出する機会を設けておられ、回転寿司に出かけることを楽しみにされている方も多い。砥部焼の絵付けに出かけた際に、ご自身で絵付けをしたカップを大切に愛用されている方もおられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 事務所で管理している人についての買い物等の場合、職員が支払いを行っている。 自分で持っている方は、自分で支払いされている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望により、自宅へ電話をし、話が出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>台所、食堂、居間は1フロアで、食事の支度が目で見え、匂い、音等体感できるようにしている。フロアの飾り付けや、花を活けたりして居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間には、ユニット毎に利用者と一緒に作ったお月見や芋炊きをモチーフにした手芸品が壁面に飾られており、行事の際等の写真が展示されていた。たばこを吸う方は、喫煙場所で吸うようになっている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビング、ダイニングがゆったりしており、ダイニングの椅子や、ソファ等で自由に過ごせる居場所を確保している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れた家具の持込を自由にしており、本人や家族の希望を取り入れたり、本人のお気に入りの写真やカレンダーを貼ったりし、居心地良く過ごせる空間となっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、タンスや鏡台、仏壇、テレビ等を持ち込まれていた。ご本人が描かれた塗り絵やご家族の写真を貼っておられる方もあった。今年103歳を迎えられる方は、長寿を祝って市長や知事、時の総理大臣から贈られた賞状を額に入れて飾っておられた。職員が作成された、イラスト入りの1日のスケジュール表を貼っておられる方もあり、表の「メダカの餌やり」の箇所を職員が指さされると、「もうやりました」と、うなずいておられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>本人にとって「何が分かりにくいのか」、「どうしたら本人の力でやって頂けるのか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。</p>	